

JFC

フレキシブルコンテナ
取扱い説明書

J F C 0 0 8 - 2 0 0 9



日本フレキシブルコンテナ工業会

平成21年5月15日 改訂

注 意 事 項

- *発注時の使用目的以外に使用しないでください。なお、危険物及び毒物劇物用は、更に個々に規定された基準を満足させなければ使用できません。
- *JFC、JIS及びケアマークの表示、または添付されている製品は賠償責任保険制度の適用対象となります。
- *あやまった取扱いは事故につながる可能性がありますので、取扱い説明書をお読みになってから、製品をご使用ください。
- *取扱い説明書はなくさないように保管してください。もし、紛失した場合には、日本フレキシブルコンテナ工業会にご連絡ください。

制 定： 平成21年5月15日

審議部会： ランニングコンテナ部会（部会長 山下 成宏） クロスコンテナ部会（部会長 小林 一実）

この説明についての意見又は質問は、日本フレキシブルコンテナ工業会（東京都台東区柳橋2-22-13）へ連絡してください。

目 次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. コンテナの定義および各部名称 | 2 |
| 2. 取扱いの基本事項について | 5 |
| 3. ご使用前の点検（安全作業基準を参照） | 5 |
| 4. 充てんについて | 6 |
| 5. 荷役作業について | 7 |
| 6. フォークリフトでの作業時の注意 | 8 |
| 7. トラック、貨車、船への積み込み、積み卸しの注意 | 9 |
| 8. 排出について | 10 |
| 9. 異常時の処置 | 11 |
| 10. 保管について | 11 |
| 11. 定期点検について | 12 |
| 12. 廃棄について | 12 |
| 13. 保証ラベル（ケアマーク）表示 | 13 |

1. コンテナの定義および各部名称

フレキシブルコンテナは、織布、樹脂フィルム又は紙のような柔軟な材料で作られた胴部と、つり上げるためのつり部及び注入・排出ができる開口部などを備えた中型容器です。直接に内容物と、または内装袋と接触するように設計し、空袋のときには折り畳めるようになっています。コンテナには次のようなタイプがあります。

ランニング I 形

繰返し充てん・排出が行えるように設計し、修理可能なフレキシブルコンテナで、修理する場合その時点の母材強度と同等の引張り強度を満足するコンテナ。

ランニング J 形（1 種、2 種）

繰返し充てん・排出が行えるように設計し、修理可能なコンテナ。修理する場合、その時点の母材強度と同等の引張り強度を満足するコンテナであるが、材料設計の違いによって、耐候性、防水性にも優れ、修理した場合、性能を保持するように設計したコンテナ。

クロススタンダード形

充てん・排出回数を数回又は 1 年を限度として使用するよう設計されたコンテナ。なお、この分類に該当するコンテナは、破損したものを使用したり、修理してはならない。ただし、取り外し可能な内装袋（内袋）の交換及び結束部品などの荷重を負担しないベルトなどの部品を交換して使用する場合、修理とはみなさない。

クロスシングル形

充てんは、1 回しか行わないことを前提に設計したコンテナ。

<ランニングI形、J形円筒形>

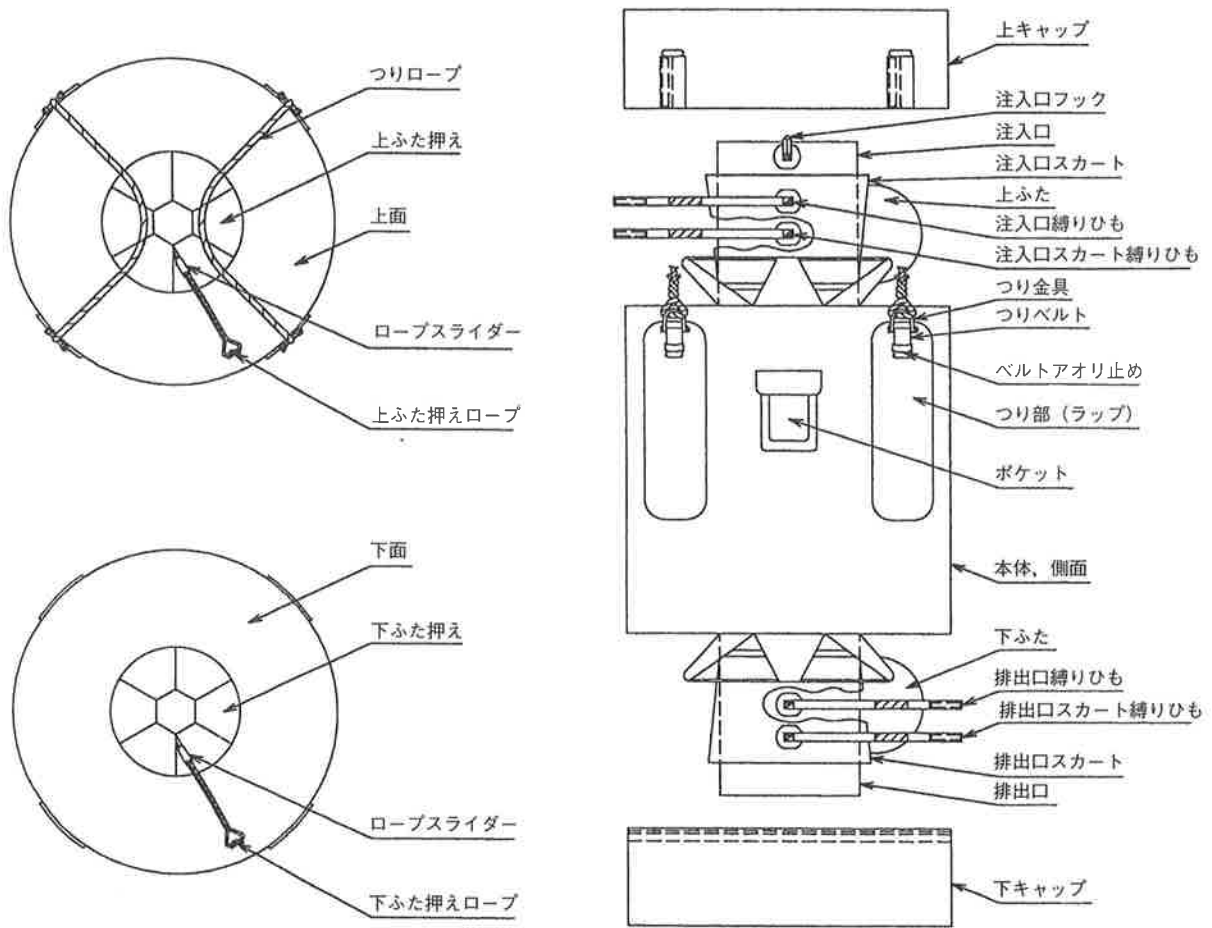


図 1 備考：形状は一例を示す。

<ランニングI形、J形方形>

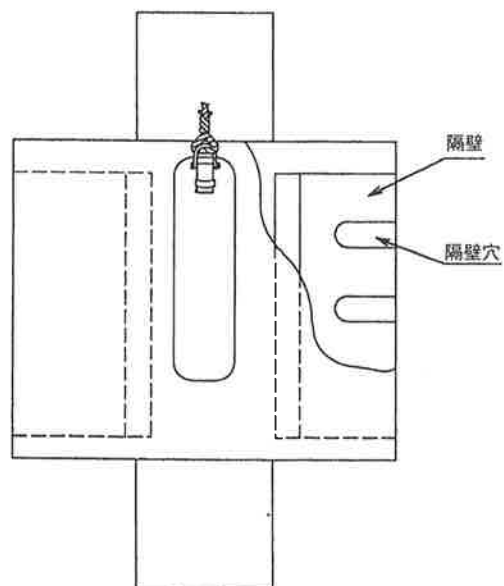


図 2 備考：形状は一例を示す。

<クロススタンダード形、クロスシングル形>

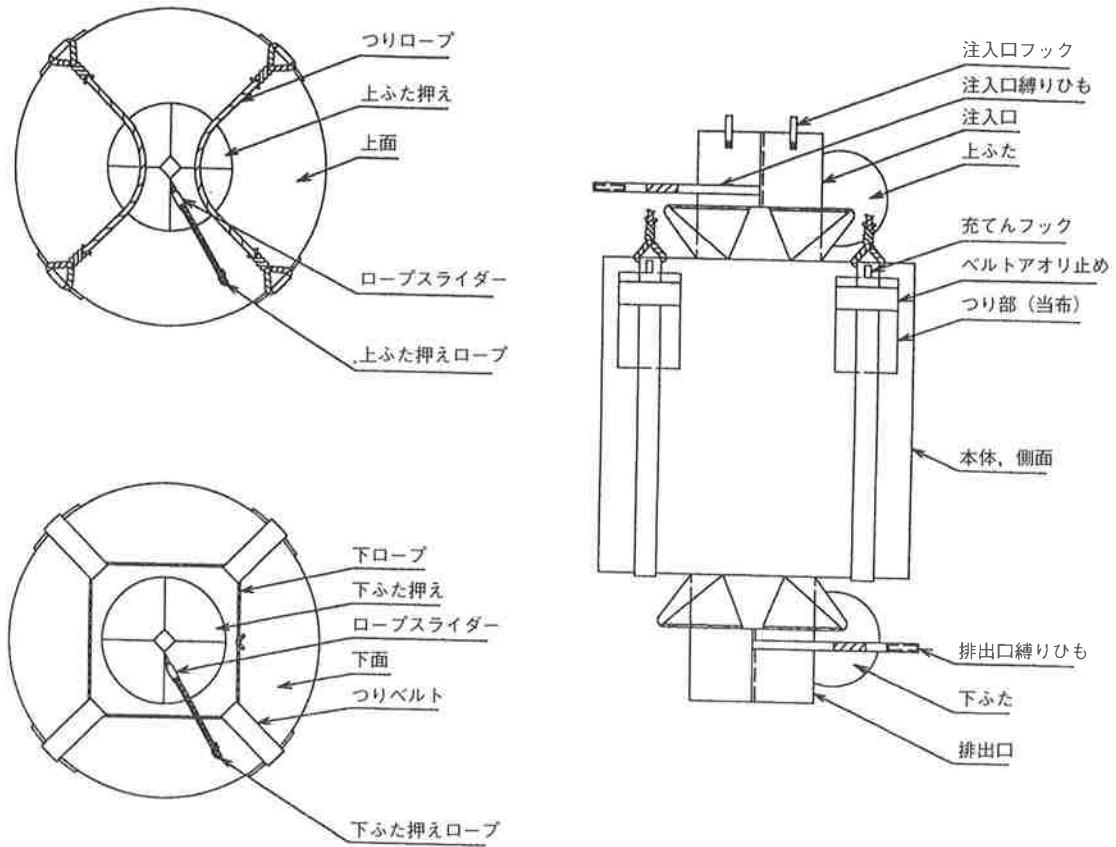


図 3 備考：形状は一例を示す。

<ランニングI形、J形加工部>

<クロススタンダード形、クロスシングル形加工部>

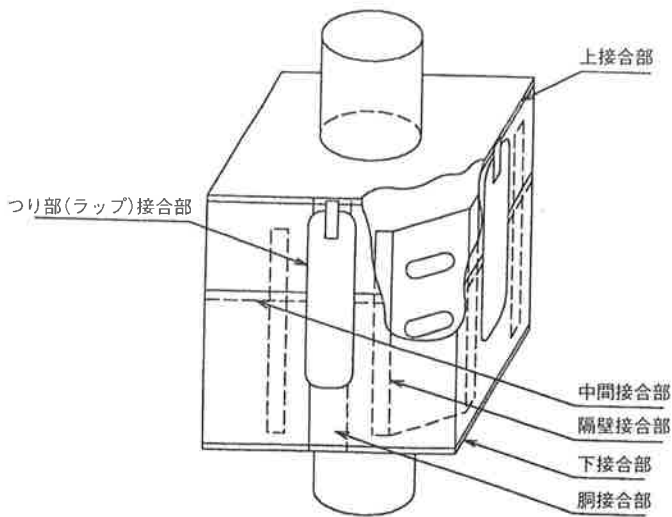


図 4 備考：形状は一例を示す。

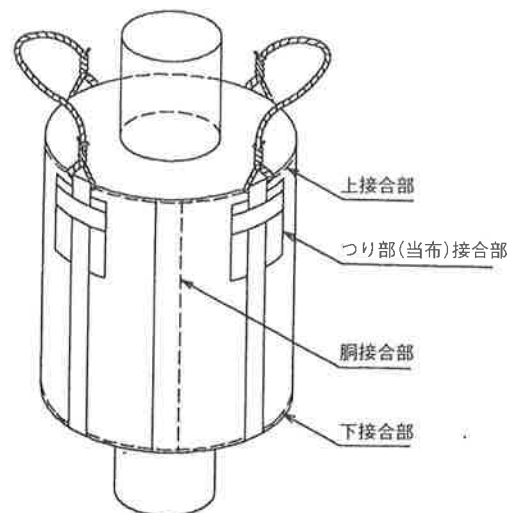


図 5 備考：形状は一例を示す。

2. 取扱いの基本事項について

2. 1 J I Sマーク表示製品及び工業会の基準（J F C 105 クロス形賠償責任保険品質保証規定、J F C 106 ランニング形賠償責任保険品質保証規定など）に適合した製品には、J F Cの品質保証マークを表示します。

2. 2 J F Cの品質保証マークが付いている製品は、製造メーカーの設計上や製造上の欠陥に起因して、製品引き渡し後に発生した、製品使用者などの第三者の生命・身体又は財物への損害事故がP L保険の対象となります。2回目以降の使用時に発生しても、その原因が初回出荷前の製造メーカーに起因する欠陥であることが立証されればP L保険の対象となります。

また、工業会会員が行うメンテナンス業務上の不備により、メンテナンス製品引き渡し後に生じた事故も、会員の行ったメンテナンスの仕事の欠陥に起因した事故として立証されれば、P L保険の対象となります。ただし製造メーカーから出荷された後、およびメンテナンス終了後の物流過程で生じたダメージや使用者の取り扱いミスによる事故はP L保険対象外となります。

なお、製造上の問題で発生した事故などにつきましては、引き渡し以降10年経過後は製造物責任賠償の対象外となります。

2. 3 クロススタンダード形及びクロスシングル形コンテナの製造メーカーによる品質保証は、フレキシブルコンテナ工業会の指針として納入日より1年または1回としております。1回目の使用時に製造上の問題で製品自体に不具合が発生したり、破損した場合は、メーカー保証としてコンテナの無料取り替えなどいたします。

納入から1年を限度として数回使用可能なクロススタンダード形のコンテナであっても2回目以降の製品自体の保証はいたしません。納入日より一年経過したコンテナはご使用しないでください。

製品自体の品質保証期間と、第三者賠償のP L保険対象期間は異なります。

尚ランニングI形、J形の製造メーカーによる品質保証期間については、J F C 011-2008フレキシブルコンテナ品質保証に関する期間設定指針を参照ください。

2. 4 数回使用可能なクロススタンダード形コンテナでも、コンテナの定義にありますように修理しての再使用はできません。内装袋の取り替えは、修理とみなしませんが、しめベルトを除き、取り替え可能なつりベルトの交換は、荷重を負担するベルトの交換にあたり修理とみなされますのでご注意ください。

3. ご使用前の点検（安全作業基準を参照）

3. 1 ご使用前には必ず各部の異常の有無及び部品の欠落の点検をお願いします。

3. 2 つりロープ、つりベルト、つり金具（ナットのゆるみ）及び接合部がすり切れていないか、糸がほつれていないか、ハガレがないか入念に点検してください。

この部分が痛んでいると、落下事故及び荷崩れが起こり非常に危険です。

3. 3 下ふた押さえロープとロープスライダーは異常ないか、縛りひもは異常ないか確認してください。この部分の結びが不十分であると内容物が漏出する可能性があります。
3. 4 クロススタンダード形のコンテナを再使用する場合でも、前述の点検を行い、使用上安全であることを確認してください。なお、前述のような異常現象が現れている場合危険ですから必ず廃棄してください。

<重要点検部位>



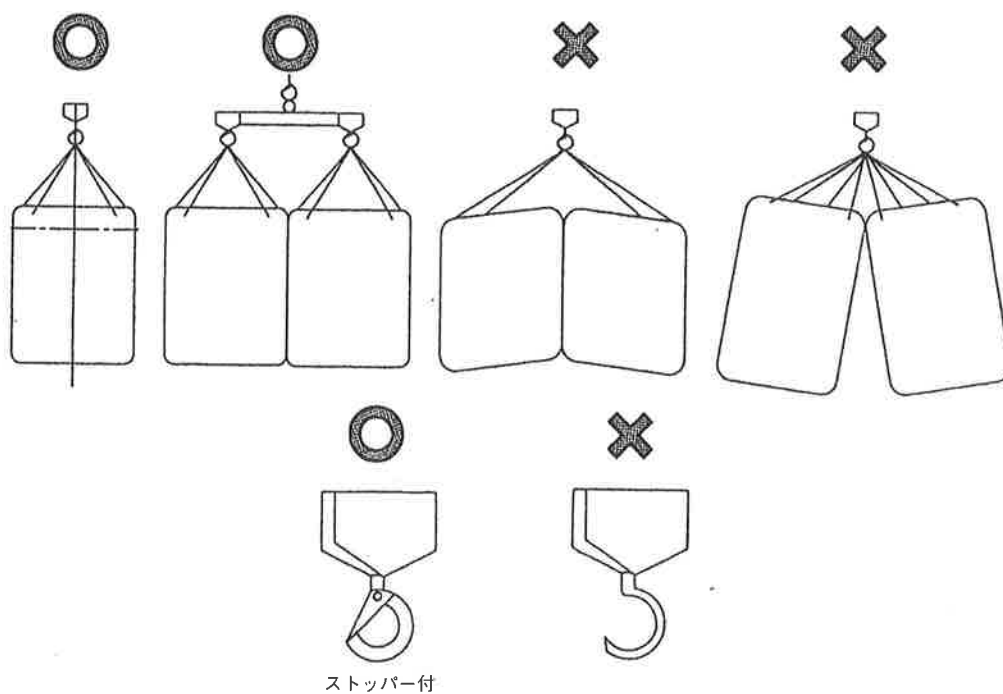
4. 充てんについて

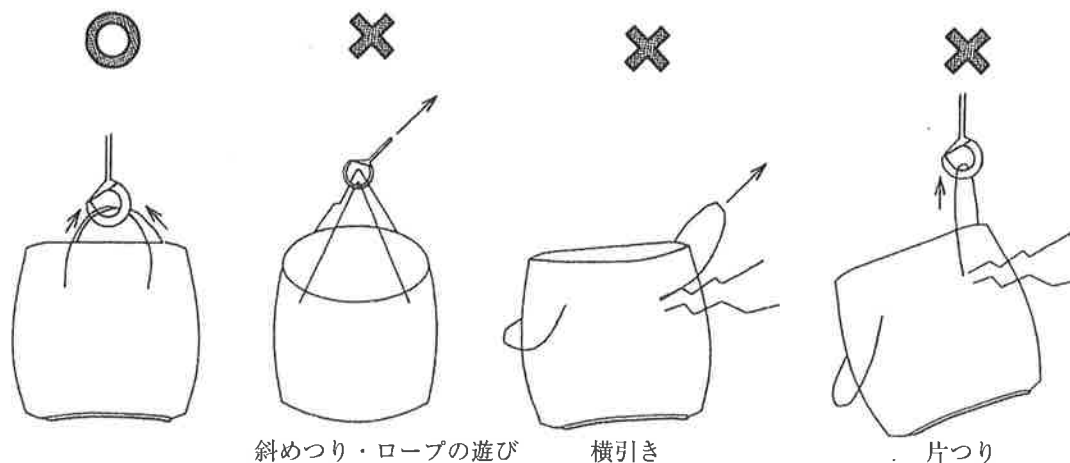
4. 1 充てんの際にまずホッパーに注入口を確実にセットしてください。なお、注入口には必要以上の力をかけないでください。
4. 2 注入口フックとつり金具、つりロープ、充てん用フックを使用する場合は必ず全部セットし片つり状態では行わないでください。片つりでは空コンテナの形状がいびつになり、充てん内容物が片寄って次の作業に支障が生じたり、つり部の破損につながります。
4. 3 注入口フック、充てん用フックはコンテナをつり上げる為のものではありません。
4. 4 地面に対してやや宙つりぎみ（10cm～15cm）にセットしてください。内容物が充てんされはじめるとコンテナ下面が地面に着き安定して充てんできます。
4. 5 最大充てん質量を超える内容物は充てんしないでください。破袋の原因となります。
4. 6 充てんが終わりましたら注入口を速やかに縛りひもで縛ってふたをしてください。
4. 7 定められた内容物以外は充てんしないでください。万が一充てんする場合はメーカーに確認してください。
4. 8 定められた充てん温度以上で充てんしないでください。強度が劣化し破袋の原因となります。
4. 9 内装袋を使用する場合は排出口部にセットしているか確認してください。本体注入口から内装袋を10cm出してホッパー口にセットしてください。充てん前にエアーを注入し内装袋をコンテナの本体内部に沿わせてから充てんしてください。充てん終了後は速やかに内装袋、注入口を縛りひもで縛ってふたをしてください。



5. 荷役作業について

5. 1 作業中はコンテナの運動範囲内に入らないでください。特にコンテナの下には絶対に入らないでください。危険です。
5. 2 コンテナをつり上げる際は装着されているすべてのつりロープ、つりベルト、又はつり金具を使用し、つり部全体に荷重が均等にかかるようにつり上げてください。片つりは落下の恐れがあり大変危険です。
5. 3 つり上げ用フックはストッパー付きで、大きめなものを使用しコンテナの真上にくるよう作業してください。
5. 4 急激なつり上げ、つり卸ろし、振りまわし、急停止等のショックをかけないでください。大きな衝撃がかかるとつりベルト、つりロープ及びつり部を破損したり、つり落とす恐れがあり危険です。



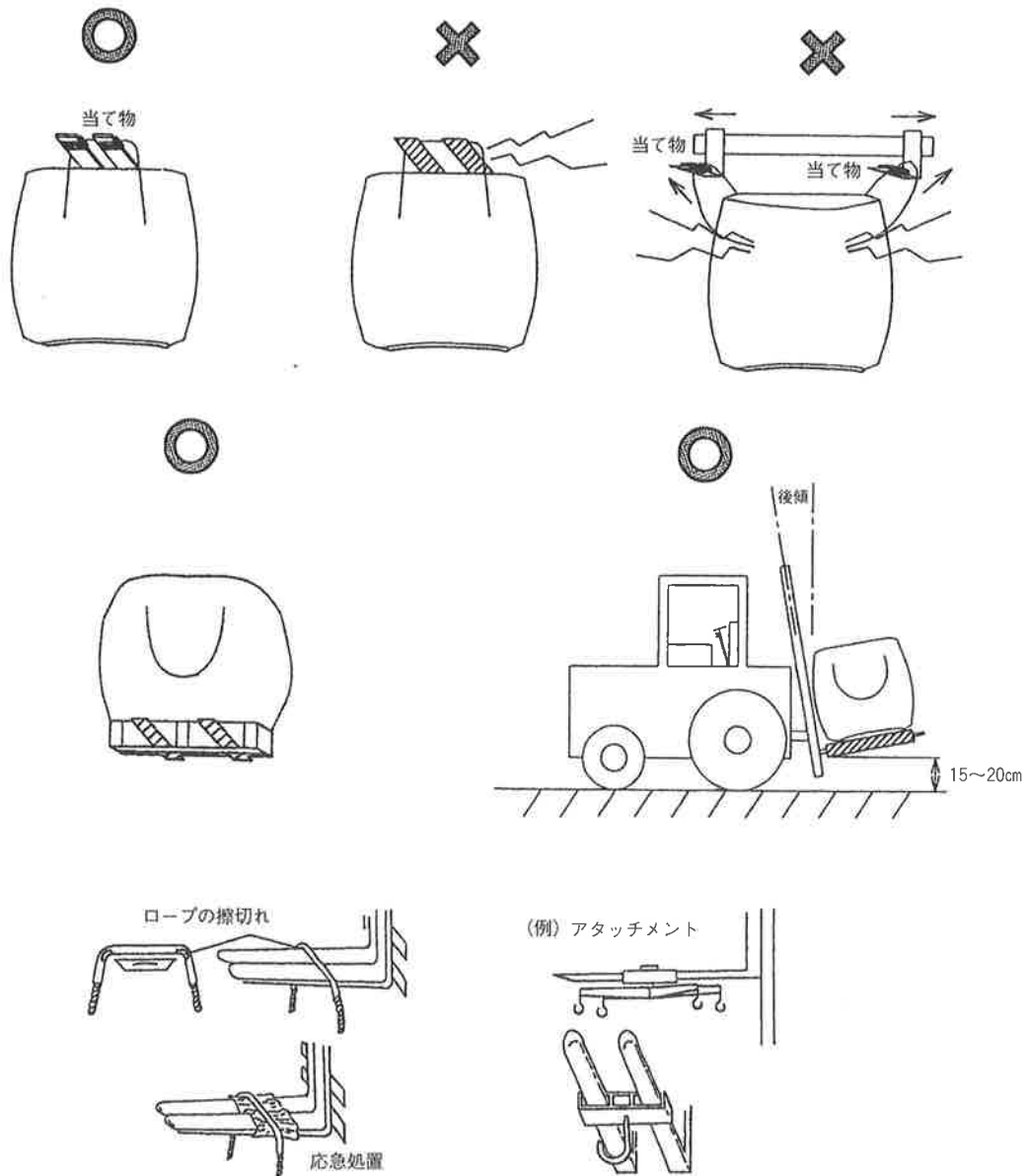


- 5. 5 斜めつり、片つり、横引きにならないようにつり上げてください。
- 5. 6 手カギ、ワイヤー等のものや、傷をつける恐れのある鋭利なものは使用しないでください。
- 5. 7 作業中に他のものに引っかけたり、当たったり、擦ったりしないでください。
- 5. 8 一度に2袋以上をつり上げるときは玉掛け用具を用い極端に片つり、斜めつりにならないよう注意してください。
- 5. 9 つり上げについては地切り数センチメートル、つり下げについては接地数センチメートルのところで一度静止させコンテナの安定を確認してください。
- 5. 10 コンテナの移送についてはクレーン、フォークリフト、玉掛け等の資格者が作業を行ってください。

6. フォークリフトでの作業時の注意

- 6. 1 フォークリフトの爪に直接コンテナをつり下げますと、コンテナのつり部とロープ、ベルトが破損する恐れがあります。
 専用のつりアタッチメントか適当なつり金具を使用してください。
 フォークリフトの爪に布などの当て物を使用してください（丸みのあるさやフォーク）。
 フォークリフトの爪を広げすぎないようにしてください。
- 6. 2 フォークリフトの爪をつりロープやつりベルトに差し込む時、コンテナを刺したり傷つけないように注意してください。
- 6. 3 フォークリフトでつり上げたコンテナは揺れを止めて、マストを後ろに倒してください。
 フォークリフトでコンテナをつって運搬するときは、コンテナ下面の高さを地上15cm～20cmに保ち、マストをやや後傾にする。このときコンテナ下面が走行中にマスト等に接触しないようにしてください。
- 6. 4 コンテナは振れやすいので、フォークリフトでつり上げた状態での長い距離の移動、又地面に凹凸のある場合、スピードの出し過ぎ、急停車、急旋回、急発進は避けてください。フォークリフ

トの横転、コンテナのつり部を破損する恐れがあります（原則として積み込み以外の移動にはパレットを使用してください）。



7. トラック、貨車、船への積み込み、積み卸し時の注意

- 7. 1 クギ、鉄板のカド、突起物、板のササクレ等に注意してください。
- 7. 2 運ばれてきたコンテナの状態を良く見てください。

片側、又は、両側にコンテナが寄りかかっている場合は、この状態を良く見て無理なつり上げを避け、寄りかかっている方から垂直につり上げてください。

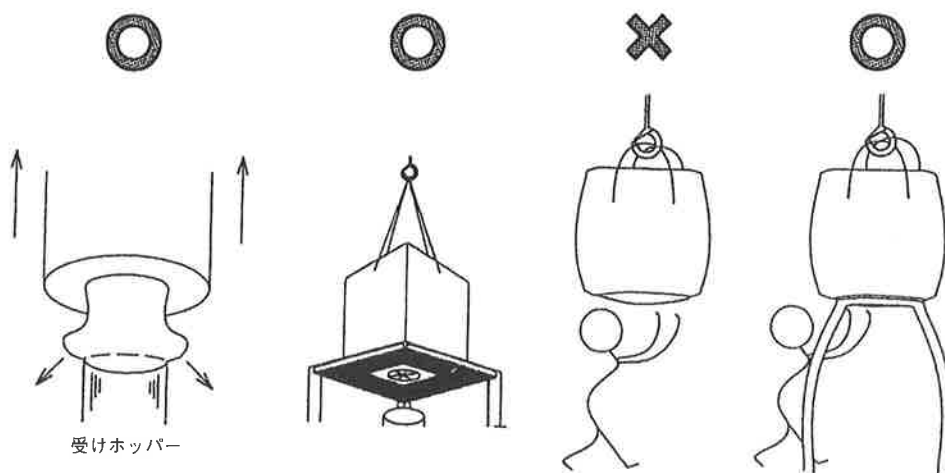
- 7. 3 荷台に2列積みの場合は、両側から積み卸しのできる場合を除いて、前方の列は荷の荷重中心が1.8メートル程度となるので、荷の質量及び荷重中心に適応した能力のフォークリフトを使用し

てください。

- 7. 4 フォークリフトの爪が短い場合に、さやフォークを用いるときは、さやフォークが抜けないように固定してロープ等をつる位置に当て物をしてください。
- 7. 5 荷を積み卸すときには、つりロープ（ベルト）がはずれたり、つり部が破損したりしないようにコンテナをフォークリフトで引っ張ったり、斜めつりを行わないでください。

8. 排出について

- 8. 1 コンテナをつり上げる際は、装着されているすべてのつりロープ、つりベルト、又はつり金具を使用し、つり部全体に荷重が均等にかかるようにつり上げてください。
- 8. 2 コンテナの状態を点検し架台を用意し、排出口のさがり長さにあわせて荷受口よりわずかに高くなるようにつり上げてください。
- 8. 3 コンテナの下部のゴミ等の異物を払った後、ロープスライダーを手前に引いて下ふた押さえを開き、排出口を引き出してください。
- 8. 4 内容物の出方が遅かったり、一時止まった時は、コンテナの胴体周辺を軽くたたか押ししてください。
- 8. 5 排出口の先が内容物の山に着いてしまっても排出が止まった場合は、コンテナを少しずつつり上げてください。
- 8. 6 以上の作業をする場合、コンテナの下へ頭、体を入れないように安全作業に十分に留意してください。**危険**です。
- 8. 7 内装袋使用の場合は、内容物が排出するにつれて内装袋の露出部が長くなりますのでホッパー等に巻き込まれないように注意してください。



9. 異常時の処置

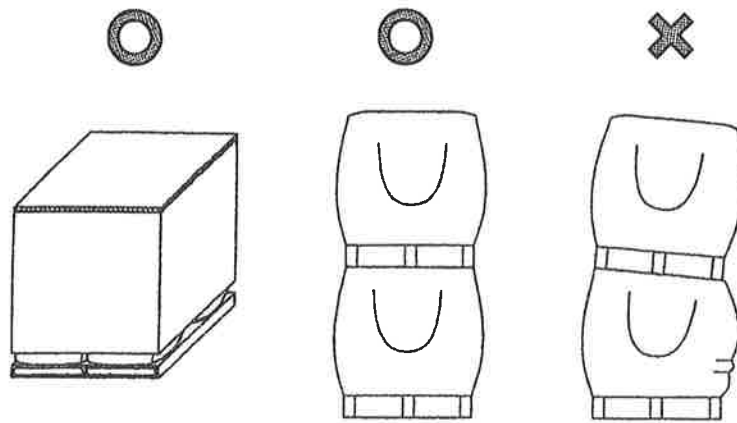
9. 1 作業をただちに中止してください。
9. 2 関係者以外の者の立ち入りを禁止してください。
9. 3 つり上げた状態で異常を発見した場合、台木、パレット、シートなどの上に静かに下ろしてください。この作業時にコンテナの下に入らないでください。コンテナの落下の危険があります。
9. 4 横倒しにならないように積み荷してください。万が一横倒しになった時は、別に用意したロープ又はコンテナ全部のロープ（ベルト）を利用し、ゆっくり引き起こしてください。＜コンテナのつりロープ（ベルト）で逆引き方向になる時はフックをかけて引き起こさないでください。＞

（注）異常と考えられる事態例

- 荷の落下
- 本体の破損、内容物の流出
- つり部の破れ、はがれ
- つりロープの切れ、ロープ結節部（さつま等）のゆるみ、はずれ
- つりベルトの切れ、はずれ

10. 保管について

10. 1 内容物及びコンテナが、光及び熱の影響を受けないよう、必要に応じて上面をキャップ又はシートで覆い下面にパレットなどを使用してください。
10. 2 コンテナを積み重ねて保管する時は、保管期間、積み重ね段数、保管条件（温度、湿度等）、内容物への影響を考慮し、保管中はコンテナの傾き、内容物の漏れなど異常の有無に注意してください。
10. 3 屋外保管の場合は紫外線、雨水を防ぐために必ず不透明なキャップ、不透明なシートを掛けてください。
特に、クロスシングル形、クロススタンダード形は紫外線により急激に劣化が生じますので注意してください。
10. 4 火気、ボイラー、蒸気パイプ等の熱源の近くに保管しないでください。
10. 5 床面が水、油、酸、アルカリ等で汚れている場所や突起物等の上に保管しないでください。
10. 6 高さ2メートル以上のはい作業は、はい作業主任者の直接の指揮のもとに作業してください。
10. 7 原則として、はい積みは2段積み以下とし、目落とし積み（ひな段積み）としてください。設計上の積み重ね段数を超えて絶対に積み重ねしないでください。
10. 8 2段を超えてはい積みする必要がある場合はポータブルラックを用いるなどしてはい崩れの防止に留意してください。
10. 9 使用前、使用後の空コンテナは冷暗所にて保管してください。



11. 定期点検について

工業会では、ランニングコンテナ製品を安全に継続使用していただくために定期点検実施規定を制定しています。工業会で加入している賠償責任保険が円滑に適用されるために、ランニング1種は購入後4年、ランニング2種は2年経過品について定期点検の実施励行をお願い致します。



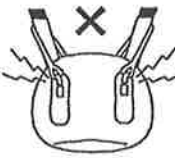






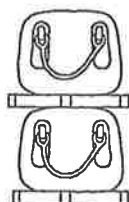
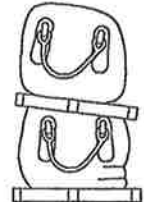
12. 廃棄について

12. 1 コンテナを廃棄する場合は産業廃棄物にて廃棄してください。
12. 2 政令、法令に定められた処理基準に従い、自ら処理するか、許可を得た産業廃棄物処理業者に依頼し廃棄してください。

13. 保証ラベル（ケアマーク）表示

<ランニングJ形1種>

[補足説明]

| 取扱い上の重要注意事項 | | | |
|--|---|---|---|
|  |  |  | |
| | 要つり手保護 | 広げ過ぎ禁止 | |
|  |  |  |  |
| | 横引き禁止 | 片つり禁止 | 積込以外の移動にはパレット使用 |
|  |  | 積重ねについて | |
| コンテナの下に入らないで下さい。 | |  |  |
| | | 転倒注意 | |
| <ul style="list-style-type: none"> •ご使用の都度 コンテナ全体の安全を確認してください •取扱い説明書明記事項に従って、ご使用下さい | | | |
| 安全使用荷重 | | N | |
| 安全係数 | | 5 : 1 | |
| 日本フレキシブルコンテナ工業会 | | | |

※要つり手保護

フォークリフトの爪に布などの当て物を使用してください。

※広げ過ぎ禁止

フォークリフトの爪を広げ過ぎないようにしてください。つり部を破損する恐れがあります。

※横引き禁止

横引きにならないようにしてください。つり部を破損する恐れがあります。

※片つり禁止

片つりなく、つり上げてください。つり部を破損したり、つり落とす恐れがあります。

※コンテナ下での作業禁止

コンテナの下へ頭、体を入れないように安全作業に十分に留意してください。危険です。

※転倒注意

積み重ね保管中、コンテナの傾きに注意してください。

はい崩れの恐れがあり危険です。

<ランニングJ形2種>

[補足説明]



ランニングコンテナ2種
品質保証

〇〇〇工業株式会社

賠償責任保険付 日本フレキシブルコンテナ工業会

取扱い上の重要注意事項

| | | | |
|---|--------|---------|-----------------|
| | | | |
| | 要つり手保護 | 広げ過ぎ禁止 | 直射日光禁止 |
| | | | |
| | 横引き禁止 | 片つり禁止 | 積込以外の移動にはパレット使用 |
| | | 積重ねについて | |
| コンテナの下に入らないで下さい | | | |
| | | 転倒注意 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ご使用の都度、コンテナ全体の安全を確認してください ・取扱い説明書明記事項に従って、ご使用ください | | | |
| 形式分類 | | | |
| 安全使用荷重(SWL) | | N | |
| コンテナ容積 | | L | |
| 充てん質量 | | kg | |
| 安全係数(SF) | 5:1 | | |
| 積重ね段数 | | | |
| コンテナの製造年月 | | | |

(注) 補足説明についてはランニングJ形1種と同じですが、下記の追加があります。

※直射日光禁止

屋外保管時、不透明なキャップまたは不透明なシートをかけ、直射日光を当てないでください。

※丸洗い洗滌回数チェック欄（最下段のワク）

丸洗い洗滌回数は、最高5回までです。

<クロスシングル形>

[補足説明]

クロス シングル
品質 JFC 保証
品質責任保証付

日本フレキシブルコンテナ工業会

〇〇〇〇工業株式会社

取扱いについて

| | |
|---|---|
| 危険 | 注意 |
|  |  |

警告! つり上げたバッグの下に直接入らないで下さい。
注意 ① つり上げは、片つりにならないようにして下さい。
 ② 直接、フォークの爪でつらないで下さい。
 ③ 日光にさらさないでください。
 ④ 荷重がつり部に均等に掛かるようにして下さい。

WARNING! Don't allow personnel under suspended FIBCs
CAUTION ① Don't suspend the FIBCs in unbalanced condition
 ② Don't use sharp edged fork tines directly
 ③ Avoid prolonged exposure to direct sunlight

詳細は、フレキシブルコンテナ取扱い説明書を読んで下さい。

| | |
|-------------|---------------------|
| 形式分類 | CSI-4BM-1000 |
| 安全使用荷重(SWL) | 9,800N |
| コンテナ容積 | 800L |
| 充てん質量 | 600kg |
| 安全係数(SF) | 5 : 1 |
| 積重ね段数 | 2 |
| コンテナの製造年月 | 08-04 |

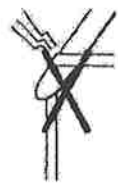
日本製(MADE IN JAPAN)



コンテナの下へ頭や体などを入れないでください。
大変危険です。



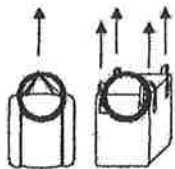
片つりなく、つり上げてください。
つり部を破損したり、つり落とす恐れがあります。



フォークリフトの爪に直接コンテナをつり下げないでください。
コンテナのつり部とロープ、ベルトが破損する恐れがあります。



屋外保管時、不透明なキャップまたは不透明なシートをかけ、直射日光を当てないでください。



コンテナをつり上げる際、荷重がつり部全体に均等に掛かるようにつり上げて下さい。

<クロススタンダード形>

[補足説明]

クロススタンダード
品質保証
品質責任保証付
日本フレキシブルコンテナ工業会
〇〇〇〇工業株式会社

取扱いについて

| | |
|---|---|
| <p>危険</p>  | <p>注意</p>  |
|---|---|

警告！ つり上げたバッグの下に直接入らないで下さい。
 注意 ① つり上げは、片つりにならないようにして下さい。
 ② 直接、フォークの爪でつらないで下さい。
 ③ 日光にさらさないでください。
 ④ 荷重がつり部に均等に掛かるようにして下さい。

WARNING! Don't allow personnel under suspended FIBCs
 CAUTION ① Don't suspend the FIBCs in unbalanced condition
 ② Don't use sharp edged fork tines directly
 ③ Avoid prolonged exposure to direct sunlight

詳細は、フレキシブルコンテナ取扱い説明書を読んで下さい。

| | |
|-------------|--------------|
| 形式分類 | CST-4BM-1000 |
| 安全使用荷重(SWL) | 9,800N |
| コンテナ容積 | 800L |
| 充てん質量 | 600kg |
| 安全係数(SF) | 6 : 1 |
| 積重ね段数 | 2 |
| コンテナの製造年月 | 08-04 |

日本製(MADE IN JAPAN)



コンテナの下へ頭や体などを入れないでください。
大変危険です。



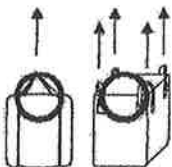
片つりなく、つり上げてください。
つり部を破損したり、つり落とす恐れがあります。



フォークリフトの爪に直接コンテナをつり下げないでください。
コンテナのつり部とロープ、ベルトが破損する恐れがあります。



屋外保管時、不透明なキャップまたは不透明なシートをかけ、直射日光を当てないでください。



コンテナをつり上げる際、荷重がつり部全体に均等に掛かるようにつり上げて下さい。

**フレキシブルコンテナ
取扱い説明書**

発行 平成21年5月

日本フレキシブルコンテナ工業会

〒111-0052 東京都台東区柳橋2-22-13

東京プラスチック会館

☎03-3864-4674